

大阪母子保健研究 16-24 ヶ月時追跡データの結果 子どもの食事パターン形成に関連する要因の同定

背景：子どもの食事摂取状況を総合的にとらえるために食事パターンを抽出し、その食事パターンに関連する要因（特に、母親由来の要因）を明らかにします。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回と第2回追跡調査（生後16-24 ヶ月時）に参加した763組の母子の内、データ欠損のない758組の母子を対象としました。第2回追跡調査で収集した子供の15食品の摂取頻度に基づき、クラスター分析を行い、2つの食事パターンを抽出しました。これらの食事パターンと関連する要因として、母親の年齢、妊娠前BMI、学歴、勤務形態、年収、家族形態、配偶者の有無、子どもの数、喫煙、運動、授乳期間、離乳開始時期、テレビ視聴時間、母親の食事パターンを考慮しました。多変量ロジスティック回帰分析では、これらの要因全てを相互に補正しました。

結果：クラスター分析により、「野菜・果物・高たんぱく質食品」食事パターン(n=483)と「菓子・嗜好飲料」食事パターン(n=275)に分かれました。この食事パターンを結果因子とした解析を行いました。「野菜・果物・高たんぱく質食品」食事パターンを基準として、「菓子・嗜好飲料」食事パターンとなる補正オッズ比を算出したところ、母親の「小麦製品」食事パターンと子供に兄弟がいた場合、有意にオッズ比が高まりました。一方、母親の「米、魚介類、野菜」食事パターンと母親の教育歴が高い場合、オッズ比は有意に低下しました。

表. 各種要因と子供の食習慣との関連

職業変数	オッズ比 (95% CI)
母親の食事パターン	
肉類・卵	1.00
小麦製品	1.51 (1.04-2.21)
米・魚・野菜	0.56 (0.36-0.87)
母親の教育歴	
高卒	1.00
短大、専門学校	0.65 (0.44-0.95)
大卒以上	0.40 (0.25-0.63)
子供の兄弟数	
0	1.00
1	1.79 (1.24-2.58)
2+	2.17 (1.21-3.88)

結論：子供の食事は母親の食事と同じような食品から構成されています。母親の学歴が高いほど、子供は好ましい食事をしており、逆に、子供に兄弟がいると、「菓子・嗜好飲料」食事パターンとなりやすいことがわかりました。

出典： Okubo H, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Murakami K, Hirota Y, Osaka Maternal and Child Health Study Group. Dietary patterns in infancy and their associations with maternal socioeconomic and lifestyle factors among 758 Japanese mother-child pairs: the Osaka Maternal and Child Health Study. *Matern Child Nutr.* 2014; 10: 213-225.